



実施計画に計上し検討する。

◆住宅リフォーム助成今後は周知は十分されたか。上限額の見直しは。(鈴木)

業者説明、市広報などで周知できた。来年度募集での条件の見直しは考えていない。

◆安全対策は生活者の目線で歩道が狭く更に整備が悪い。また、自転車事故も多く歩行者・自転車は危険が多い。交通安全対策は。(山口)

高齢者や子ども・歩行者及び自転車の安全確保、生活道路・幹線道路の安全確保を重点として推進していく。



市外の歩道上に表示されたサイン

◆振興バスの運行計画改善を

問 昨年の利用状況は。(青木)

答 昨年の利用人数は、15万6千人、運行経費は、8千374万円、運賃収入1千563万円で

あり市負担6千811万円となり、本年運行計画見直しを基本として、改善を図っていききたい。



市民の足「地域振興バス」

農林業の

振興策は



◆作業道整備の充実を

問 原発から再生可能エネルギーへの転換の流れが進むなかで、森林が多い本市では木質バイオマスの活用が有効ではないか。木材の搬出コストを下げるために作業道の整備が必要ではないか。(柴田)

答 新エネルギーでは太陽光と同様に有効なエネルギーと位置付けている。搬出間伐と作業道整備の補助金を活用しコストを下げることで安定供給につながると考える。

◆森林保全と林道改修を

問 昨年の間伐状況と本年度間伐予定と活用は。(青木)

答 昨年の間伐面積342ha、山林全体の2.3%、本年度は320haを予定。間伐材の有効活用を図る。

問 豪雨災害の対応は。(青木)

答 年度内に復旧を行う。

◆農業再生プロジェクト

問 自給率向上、地産地消を柱に市農業再生の施策が出されたが、PPP推進を含む政府の成長戦略を背景とした総合特区制度の活用が盛り込まれている。検討が必要では。また今後の進め方は。(鈴木)

答 関係機関等による農業再生ネットワーク会議ワーキンググループを中心に農業基盤強化にむけ事業を具体化していく。税、財、金融などの規制特例で事業推進の効果を期



豪雨災害の現場



信州農業公園 チロルの森

待。3月末特区申請を目指す。

◆農業再生でのワイン振興

問 特区等のプロジェクト案のねらいは何か。(丸山)

答 提案事業実現への動きが、「ぶどうとワインの郷塩尻」のアピールとなり、ブランド力の向上や生産農家の収益と生産意欲の向上につながることを期待している。

観光資源の

有効利用



◆チロルの森を大人も活用を

問 年間パスポートの加入促進と大人の利用者拡大の企画はあるか。(丸山)

答 年間パスポートの加入は順調な伸び。特典の充実や周知を図っていく。また、ウオ